



作業の手を止めてSLに手を振るお茶摘みさんたち



二人一組で仲睦まじくお茶を刈る



すくすく育った新芽を丁寧に摘んでいく

ユネスコエコパークに登録された、静岡市井川と川根本町の魅力を伝える、地域でつくる新聞

井川と川根をつなぐ いかわね新聞 No.4

やんばいです、川根の茶時



いかわね新聞 第4号 2016年7月1日発行(年3回発行)
発行：南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会
〒420-8602 静岡市葵区追手町5の1 静岡市環境創造課内
TEL 054(222)1357

【会員】静岡森林管理署、天竜森林管理署、静岡市、静岡市、川根本町、(株)特種東海フオレスト、中部電力株静岡支店、しずてつジャストライン株、川根本町森林レクリエーション推進協議会、自然公園指導員、井川観光協会、川根本町まちづくり観光協会、南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会、一般社団法人エコティかわね

【会の紹介】南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会は、南アルプス周辺地域の自然環境の保全と文化の継承を図り、その持続可能な利活用を推進することを目的とした協議会です。※この新聞では、川根本町の情報を「かわね」と表記しています。

2016 7月~ イベントカレンダー

7月	2日(土)	かわね	南アルプス寸又峡口山開き
	16日(土)	いかわ	山開き
	16日(土)	いかわ	リバウエル井川夏スキーOPEN
	中旬	かわね	平谷の流したい
	13日(土)	いかわ	リバウエル井川大流しそうめん
	15日(月)	かわね	徳山の盆踊
	15日(月)	いかわ	井川夏祭り
8月	中旬	かわね	百八たい(下長尾地区)
	26日(金)	いかわ	諏訪神社やまめまつり
	26日(金)	いかわ	二十六夜祭
	27日(土)	いかわ	てしまんく音楽祭(井川ビジターセター)
	15日(土)~	かわね	寸又峡 和紙のあかり展
	中旬	かわね	徳山神楽
10月	23日(日)	いかわ	井川大仏 秋の例祭
	30日(日)	いかわ	井川もみじマラソン大会
	下旬	かわね	奥大井紅葉まつり

※予定は変更される場合があります。詳しくは下記までお気軽にお問合せください。

井川観光協会 ☎054-260-2377
川根本町まちづくり観光協会 ☎0547-59-2746



住民ボランティアの手で 大札山山頂にベンチ3基を設置!!



5月29日(日)、南アルプスユネスコエコパークの普及啓発活動の一環として「大札山山頂ベンチ設置イベント」(エコティかわね主催)が行われました。大井川流域の住民ボランティア44名とエコティかわね会員13名の計57名が、ベンチの材料となる木材を担いで山頂まで運び上げ、3基を組み立てました。合言葉は「みんなでやるからおもしろい!!」。材料も人も大井川流域産。山や自然を愛する者同士がともに汗を流し、力を合わせてやりきりました。参加者からは「苦労した分、達成感がある」「大札山へ登る楽しみが増えた」との声が。作業後は皆さん清々しい表情を浮かべていました。川根本町を代表する山であり、たくさんの登山客が訪れる大札山。山頂は、富士山や南アルプスの山々、伊豆半島から浜名湖方面まで見渡せる絶好の展望スポットです。新しくなったベンチでのんびりお寛ぎください。

かわね

せんまいだけ 千枚岳からの赤石岳
あかいしだけ

千枚岳(2,880m)に登るとまず赤石岳(3,121m)が目に入ります。ここから見る赤石岳は重厚であり、まさに南アルプスの主峰です。北側には静岡県で富士山の次に高い間ノ岳が少し遠くに見えます。間ノ岳の山頂直下から染み出る滴は沢水を集めて二軒小屋で大井川と名を変えて、南へと深い谷を刻みながら井川へ流れていきます。井川、川根のお茶畑の間を蛇行しながら大河となります。

文・写真 杉下健一

かわね

てかりだけ 光岳 ~おひろねポイント~
易老岳(2,354m)から光岳(2,592m)方面へ約70分登ったところ(三吉平入口)に、大きく開けた平原が現れます。目の前には雄大な山々、隣には緑深く広い谷間が見えます。これから光岳山頂を目指す前に、ザックをおろしてちょっとおひろね。太陽の日差しと涼しい風の両方を体で感じる。そして目の前に広がる絶景。南アルプスの自然の中で開放感溢れるひとときを過ごせる素敵な場所です。

文・写真 中村隼人

もえぎ色に輝く茶畑で茶摘みに精を出す姿。新芽がゆらゆら揺れ、風を感じる瞬間。茶工場からはガチャンガチャンとお茶を揉む機械の音が聞こえ、新茶の香りが漂う…。五感で川根を堪能できる茶時(ちやどき)をお茶を摘む季節)です。

「やんばいです」とは川根の方言。「いい塩梅です」が由来で、お天気の日のおいさつとして使われています。茶時が近づくと「今年のお茶はどうだよ〜?」とあちこちでお茶の話題が交わされ、心なしかみんなソワソワ。茶時はみんなが主役!!昔から「茶時に医者はいらない」といふほど、この地域に根つき活気をもたらし茶摘み。普段は家に籠りがちなお年寄りもこの時ばかりは生き生きとし、驚くべき速さでお茶を摘んでいきます。「あんだ久しぶり、元気だっけ?」年に2度の茶摘みで顔を合わせる人もいたりして、互いの安否確認、近況報告の場にもなっています。

川根の人々はお茶とともに暮らしてきました。家の前やすぐ近くに茶畑があるのも川根ならではの風景です。庭先にピクや茶かごが干され始めると、茶時が始まる合図。40、50年前までは一週間ほど「お茶休み」があり、子どもたちも学校を休んで家の手伝いをしていったんだとか。機械が主流となった昨今ですが、お茶摘みが川根の一大イベントであることに変わりありません。恵まれた自然条件だけではない、お茶とともに生きてきた川根の人々の思いや、暮らしそのものが「銘茶・川根茶」を支えています。